

冷凍食品業界における容器包装 3 R 推進のための自主行動計画

第 4 回フォローアップ調査集計結果

<はじめに>

社団法人日本冷凍食品協会は 2006 年（平成 18 年）3 月に『冷凍食品業界における容器包装 3 R 推進のための自主行動計画』を策定しています（別掲参照）。

3 R とは、リデュース (Reduce : 減量)、リユース (Reuse : 再利用)、リサイクル (Recycle : 再生利用) のことですが、上記の自主行動計画では、このうち プラスチック製容器包装のリデュースについて「2010 年度までに 2004 年度実績比 3 % 削減（原単位）」 という数値目標を定めています。また、容器包装リサイクル法の対象が一般廃棄物として家庭から排出される容器包装であることから、調査対象は家庭用冷凍食品の容器包装に限定しています。

この自主行動計画では、「取組みの結果については毎年度検証し、公表する」としていることから、第 4 回フォローアップ調査を 2010 年度に実施し、家庭用冷凍食品メーカー大手 8 社にご協力いただきました。

<2009 年度の調査結果について>

結果は下表のとおりで、2009 年度の家庭用冷凍食品容器包装のプラスチック使用量原単位（冷凍食品販売数量 1 トン当たり）は、2004 年度比で 5.2% 減少しました。

「2010 年度までに原単位で 3% 削減」という数値目標は 2007 年度にすでに達成していますが、2009 年度はさらにその数値を下回りました。

これは、家庭用冷凍食品では、

- ◆プラスチックトレイの廃止や薄肉化
- ◆紙トレイへの切替え
- ◆包装フィルムの材質変更による軽量化
- ◆パッケージのダウンサイジング

など、プラスチック使用量削減に取り組んだ対象商品数が、着実に増加した結果と考えられます。

また、リデュース以外にもリサイクルしやすい包装として、パッケージのアルミ蒸着フィルムの除去も進められています。

冷凍食品業界では、今後も、より環境に配慮した容器包装材質への変更などとともに、配送効率の向上を目的としたダウンサイジングやダウンウェイティングが進められ、プラスチック製容器包装の使用量削減が一層推進されることが見込まれています。

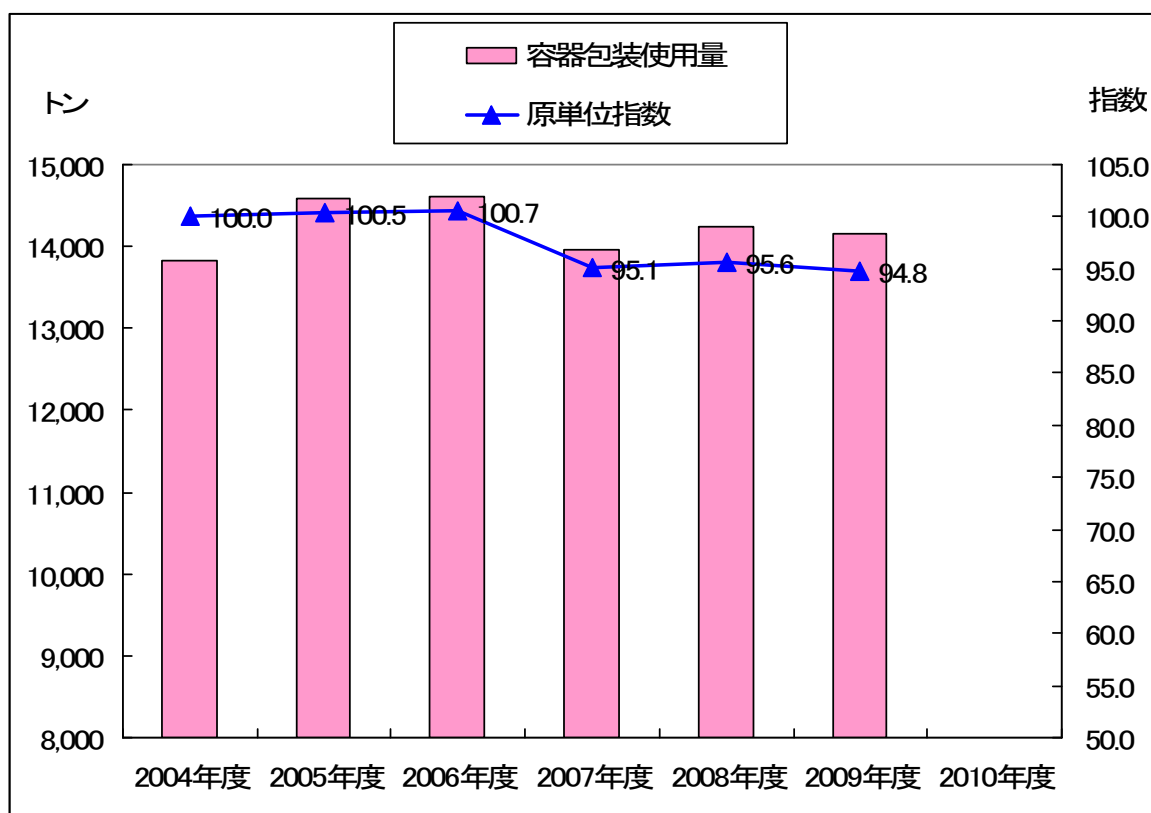
<第4回フォローアップ調査集計結果>

調査対象：家庭用冷凍食品を製造・販売する大手8社

対象商品：プラスチック製容器包装を使用した家庭用冷凍食品

指 数：2004年度を100とする

年 次	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度
容器包装使用量 (トン)	13,824	14,592	14,611	13,969	14,249	14,150
同 指数	100.0	105.6	105.7	101.0	103.1	102.4
製品販売量 指数	100.0	105.1	105.0	106.3	107.9	108.0
原単位	100.0	100.5	100.7	95.1	95.6	94.8



目標：2010年度までに2004年度実績比3%削減（原単位）